

# デタラメ

よみびとしらず  
詠人不知

出たら芽、芽が出るにはね、出ると言うより出なきやね、芽はさ。

今日の朝がた、昨日の深夜過ぎ、どちらも同じよう違う気がして、フラットとシャープにも似た呼び名の違うヤツを根底から考え直そうと、アルコール漬けの一夜漬けで一人モクモクと煙草をふかしながら黙々とやっていたら、こんがらがり、転がり、殺すか否か、そろそろ田舎に帰ろうかななどと、おどろおどろしい声でつぶやいてみたり、金切り声で泣くスピーカーに耳を傾けるふりをしてみたり、シマシマのパジャマで隣の民家に勝手にお邪魔しようかななどと、さっきから殺気立ってるじゃんけん負けっぱなしの右手が勝手口で生意気なので、いつそのこと、居候にしるよあほうと抜かし、左手ならごぼう抜きなんじゃないのと大根足の胡瓜婦人がじゃがいもみたいな面で茄子がままにドレッシングしようとしやがる。

どれを？どれをうたう？

謳い文句は決まらず、社会のうねりに飲み込まれ、うねうねとくねくねのダブルブッキングにぶるぶると震えながらも、ぐ

ずぐずと愚図を描けば何故か、成せばなるよとクスクス笑いが込み上げてきた。

そのうち、クスクス笑いだったはずが昇格し、クスクス笑いのリーダーになり、気付けばクスクス笑い主任になった頃には、もうクスクスどころではなくなり、むしろクスクスと成長した事から、クスクスなどと皆から呼ばれ慕われるようになり、果てはスクさん、スク様、好く男の子、スクメン、スクメン、素面、とアルコールもはや完全に抜けてしまい、朝日が出てしまい、出たら目、目が白から赤に変わっても、違うようでも同じであり、要するにこの事態、この字体、この私自体、デタラメなのであった。

出た目の数だけ前進やら後退やらを繰り返し、挙げ句の果てにはスタート地点に戻るような人生ゲーム。

私は今ここに III。